国立国語研究所学術情報リポジトリ

基礎篇第一課　これは　かえるです：「こそあど」＋「は＿＿＿＿です」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002780

日本語教育映画解説 1

基礎篇
第一課

これは かえるです

——「こそあど」＋「は＿＿＿です」——

国 立 国 語 研 究 所

前　書　き

国立国語研究所では、昭和４９年度以来、日本語教育部ついで日本語教育センターにおいて、日本語教育教材開発事業の一環として日本語教育映画基礎篇を作成してきた。これは従来、文化庁において進められていた映画教材作成の事業を新たな形で引き継いだものである。

日本語教育映画基礎篇は、各課５分の映画にそれぞれ完結した主題と内容を持たせ、それを教育の必要に応じて使用する補助教材、また、系列的に初級段階の学習事項を順次指導する教材として提供しようとするものである。

映画の作成にあたっては、原案の作成・検討から概要書の執筆まで、また、実際の制作指導においても、日本語教育映画等企画協議会委員の方々に御協力頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

この解説書は、映画教材の作成意図を明らかにし、これを使用して学習し、指導する上での留意点について述べたものである。この解説書がこの映画教材の利用を一層効果あるものにすることを願っている。この第一課「これはかえるです」の解説は、主として日本語教育センター日本語教育教材開発室日向茂男の執筆によるものである。

昭和５３年３月

国立国語研究所長

林　　大

目　　次

1. はじめに …… 1
2. この映画の目的・内容・構成 …… 2
　2.1. 目的・内容 …… 2
　2.2. 構成 ── 場面を中心として …… 3
　2.3. 語句、語法、文型 …… 24
　2.4. 音声表現について …… 37
3. この映画の効果的な利用のために …… 38
　3.1. 具体的利用法 …… 39
　3.2. 語、語法の理解 …… 40
　3.3. 文型練習 …… 41
　3.4. 場面を使っての練習 …… 50
　3.5. 進んだ段階での利用法 …… 50
4. おもな文献 …… 52
資料1. 使用語彙一覧 …… 53
資料2. シナリオ全文 …… 65

1　はじめに

この日本語教育映画基礎篇は、初歩日本語学習期における視聴覚補助教材として企画・制作されたもので、この映画「これはかえるです」は、その第一課にあたるものである。

この映画の企画・構成・概要書の執筆などにあたったものは、次の通りである。

昭和４９年度日本語教育映画等企画協議会委員（肩書きは当時のもの）

池尾スミ　アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター専任講師
石田敏子　国際基督教大学専任助手
今田滋子　国際基督教大学助教授
川瀬生郎　東京外国語大学附属日本語学校助教授
木村宗男　早稲田大学語学教育研究所教授
斎藤修一　慶応義塾大学国際センター助教授
水谷　修　国立国語研究所日本語教育部日本語教育研究室長

日本語教育部（当時）関係者（肩書きは当時のもの）

林　　大　日本語教育部長
武田　祈　日本語教育部日本語教育研修室長

この映画「これはかえるです」は、主として川瀬生郎、木村宗男両委員の原案に検討を加えて作成したものである。

本解説書は、日本語教育センター日本語教育教材開発室の日向茂男が執筆した。

なお、この映画は、日本シネセル株式会社が制作を担当した。

現在、この映画は、より多くの人の利用の便をはかって下記９カ所において貸し出しを行っている。

- 北海道教育庁指導部社会教育課視聴覚教育係
- 宮城県教育庁社会教育課
- 都立日比谷図書館視聴覚係

- 愛知県教育センター企画管理課
- 京都府教育庁社会教育課
- 大阪府教育庁社会教育課
- 兵庫県教育庁社会教育・文化財課
- 広島県教育庁社会教育課
- 福岡県視聴覚ライブラリー

また、この映画は、上記制作会社が販売している。

2. この映画の目的・内容・構成

2.1. 目的・内容

この映画「これはかえるです」は、すでに述べた通り基礎篇第一課に位置する作品である。したがって、この映画での日本語がまさに学習者のはじめて接する日本語であっても、ここを出発点として学習が進められるような配慮がなされていなくてはならないであろう。（実際の利用法としては多くの場合、ここで取り扱われている文法事項や文型等を学習している段階、あるいは学習し終った段階で補助教材として利用するのが一般的であろう、と思われるが。）

主要な学習内容は、サブタイトルに「こそあど」＋「は ___ です」とあるように、まず次の諸点である。

(1) 映像を通して言語場面内での「こそあ」の遠近感を話者、事物の関係で具体的、実際的に理解する。同時に「ど」の用法も理解する。

(2) 「ど」の用法の他に、「ど」との関連で「何」「いくら」などの用法を理解する。

(3) 「こそあど」と「は ___ です」の組み合せでできる文を日本語学習の第一歩として完全に身につける（肯定文、否定文、質問文、など）。

そして、これは本来は(1)(2)(3)に先立って学習されるべき本質的な事柄なのだが、

(4) 音声表現と表現された事物を映像を通じて確実に結びつけ、理解する。

以上のような学習内容が十分生きるように語彙、語法、文型、などに細かい配

慮をし、5分というわく組の中で言語表現が場面に即して生きるような工夫をした。

企画の段階で以下の点を考慮した。

(1) ストーリーに重点を置かない。（したがって、主人公は何者なのか、というようなことは映画的には不問にした。）

(2) a．なるたけ単純な人間関係（特に敬語の入りこまないような）を設定し、
b．やりとりされる事物をなるたけ単純で誤解のないものとし、
c．以上のことが成立する単純で納得的な場面を設定する。

(3) 場所、時間、等については映像が必然的にもたらす情報以外積極的に何も付け加えない。

(4) 映像教材の特質を生かして、対話の形で構成する。

この映画作成上の困難点は、つきつめれば、

(1) 言語表現の単純さからくる会話らしさの無理

(2) 言語表現の単純さからくる場面設定の無理

の2点であるが、克服可能なところまで克服しているといってよい、と思う。

2.2 構成 ── 場面を中心として

2.2.1 映画での場面や言語表現については、以下の通り扱うことにする。

1. 映画の構成に従って、場面を分ける時にはⅠ、Ⅱ、Ⅲ……のようにし、それを更に小場面に分ける時には、Ⅰ－1、Ⅰ－2、Ⅰ－3……のようにする。
2. 言語表現については、文単位で①②……のように通し番号をつける。文を変形引用する時には、′の印をつけ、①′②′……のようにする。変形引用がふたつ以上ある時には、″″……の順で′を重ねていく。

文単位の認定には多少問題のあるところもあるかもしれないが、ここでは積極的には文の問題には触れない。①②……の文番号は、使用語彙一覧で引用される文やシナリオ全文でのものと共通である。

2.2.2 さて、この映画の流れに即して全体の構成を見て、次に場面を整理してみよう。

Ⅰ　一人の日本人旅行者（坂本）が羽田空港（？）に到着する。

Ⅱ　彼は税関で荷物のチェックを受け、

Ⅲ　タクシーに乗り、ホテルに向かう。

Ⅳ　ホテルに着いてからは、ロビーに置いた荷物を自分の部屋にボーイに運ばせ、

Ⅴ　そのあと、ホテル内の売店で絵葉書と地図を買う。

以上がこの映画を構成する骨子となっている。これに対応して全体を五つの場面に分ける。

Ⅰ　羽田空港（？）到着

Ⅱ　税関で

Ⅲ　タクシーの中で

Ⅳ　ホテルのロビーで

Ⅴ　ホテルの売店で

以上の五つの場面を中心にすえて、各場面での言語表現を検討していく。この映画の中心的なねらいである「こそあど」の観点から主として眺めることになるが、場面内での言語行動と合わせて検討される必要があろう。

Ⅰ　羽田空港（？）到着

一機の飛行機が空港に到着する。

これは単に映画構成上の導入用としての場面で、主人公の姿も見えず、せりふも全くない。（進んだ段階では、別にナレーションを挿入するとか、あらかじめ質問文を挿入するとかいろいろ活用方法があるが、ここでは触れない。）

飛行機が到着したあと、映画としてはタイトルが出、税関での場面へと移る。そこに現われた主人公を見て、学習者は彼が空港に着いて、今、税関にいることを知る。

Ⅱ　税関で

税関表示板が示され、続いて税関吏と旅行者・坂本との対話

税関吏「①どうぞ。

②これは何ですか。」

坂　本「③それは人形です。」

税関吏「④これは何ですか。」
坂　本「⑤それはたばこです。」
税関吏「⑥これもたばこですか。」
坂　本「⑦いえ、たばこではありません。
　　⑧それはウイスキーです。」
税関吏「⑨それは何ですか。」
坂　本「⑩これは時計です。」
税関吏「⑪はい。
　　⑫それも時計ですか。」
坂　本「⑬いいえ、かえるです。」
税関吏「⑭え、かえる？」
坂　本「⑮はい、これはおもちゃです。」
税関吏「⑯ほう。
　　⑰これは何ですか、ゴムですか、プラスチックですか。」
坂　本「⑱それはゴムです。」
税関吏「⑲ほう。
　　⑳あれもあなたの荷物ですか。」
坂　本「㉑いいえ、あれは私の荷物ではありません。」

対話者は、今、荷物チェックのためのカウンターをはさんで向かいあっている。この場面での二人の関係、それから二人の位置的関係に注意を向けてほしい。まず、二人の関係だが、税関吏、旅行者という関係は極めて事務的であるからあいさつ言葉抜きでいきなり実質的な対話をしても少しもおかしくない。税関吏はきく立場、旅行者はきかれたことを答える立場という設定である。旅行者はきかれたものについてそれが何だか、知っているはずだし、また税関吏にはっきりと提示しなくてはならない。

次に二人の位置的関係だが、カウンターをはさんで向かいあった二人の位置はほぼ固定されている、といっていい。そこで、二人に提示されたものが二人から見て、どういう位置にあるかだけが「こそあど」の用法に関係してくる。

この二点からいってこの場面は、「こそあど」の導入としては非常に望ましい場面であることがわかる。

さて、この場面で提示されるものは、次の六つである。

- 人形
- たばこ
- ウイスキー
- 時計
- かえる（おもちゃ、ゴム製）
- 荷物

すでに述べたように、これらのものは映像を通じて極めて容易に把握できるものでなければならないし、また典型的一般的な形で映像化されていなければならない。学習者が繰り返し見る場合、音声表現と事物の結合が視覚的にますます強化されるものでなければならない。上の六つのもののうち、「かえる」が一番複雑な提示のされ方をするが、ここには学習のねらいの一つがある。また「荷物」は後に「かばん」という言葉が出てくることもあって、その取り扱いに慎重でなければならない。

この税関での場面をいくつかの小場面に分けて、今度は「こそあど」の問題を具体的に検討していく。

Ⅱ—1　人形、たばこを話題にして（①から⑤まで）

「こ」「そ」の用法の導入、「何」の理解がここでのねらいである。

②④これは何ですか。→それは｛③人　形 / ⑤たばこ｝です。

対話は二人の共有領域内で起こる。税関吏は自分の手にしたもの（「こ」）について質問し、坂本は相手の手にあるもの（「そ」）について答える。これが「こ」「そ」の理解の基本であるから、導入として二度繰り返えされているわけだが、実際の教室では更に徹底した反復練習がほしい。

「何」に対して提示されたものは、「人形」と「たばこ」であった。まず「人形」であるが、この場面にいくら目をこらしてみても人形と呼べるようなものは何も見えてこない。そこにあるのは包装された箱である。「何」は、実は包装された箱の中のもの、つまり実質的なものに向けられた問いであって、このことは続いて提示される「たばこ」についても同様である。ただ、「たばこ」の方では、

税関吏は、紙袋からたばこを取り出し確認するという行動をとっている。ここでは、この作業が「人形」の方にも実はほしかった。やはり包装をといて中から人形をとり出して外に明示するという親切がここにはあるべきだったろう。税関の場ではそれが行われたにしても不自然ではないし、またそれができる場所として税関の場が選ばれていたはずであった。人形は最初に提示されるものだけにちょっと残念である。ついでに言えば、次の「たばこ」やそれに続く「ウイスキー」でも学習者がそれとはっきり確認できるような提示のしかたの工夫がもう少しあるべきだっただろう。

とはいうものの、事物の典型的一般的な提示のしかたは、事物の、他の物事との関係のありようで中々難しい。「これは何ですか。」という問いに次のような言語表現が成立する場面、情況だってありうるだろう。

それは{③人形 / ③′箱}です。

それは{⑤たばこ / ⑤′ 紙袋}です。

ここで質問文の「何」は、包装された箱の中のもの、紙袋の中のもの、というふうにその実質を問うために使用されているわけだが、実質が外に見えながら本人には不確かであったり、わからなかったりした場合は、次のような質問文になる。

②′ これは人形ですか。

④′ これはたばこですか。

初歩日本語教育ではふつう、②④よりも②′ ④′ の方が先に学習されるものであろう。もちろん、②′ ④′ に先立っての②″ ④″ の学習が前提となる。

②″ これは人形です。

④″ これはたばこです。

これは、明示された事物をめぐって肯定文の言い方を学び、ついで質問文の言い方を学ぶ、という順をとるからである。

ともかくここでは、

＿＿ は ＿＿ です（か）

という基本的な文型が、まず提出されたわけである。言うまでもなくこの文型

が中心的な学習項目となっている。

Ⅱ－２　たばこ、ウイスキーを話題にして（⑥から⑧まで）

「こ」「そ」につく助詞「は」と「も」、質問文に対する「はい」「いいえ」を使っての答え方がここでの学習のねらいである。

⑤　それはたばこです。

⑤′ それもたばこです。

肯定文では「も」は同種のものを提示するのに使われるが、質問文でも前に提示されたものと同種のものかどうかと問う場合に「も」が使用される。

④′ これはたばこですか。

④″ これもたばこですか。

④″ が⑥である。税関吏は、坂本のかばんの中の同種の紙袋を見て、それ「も」たばこか、と推測し、質問したわけである。

④′ ④″ の別に関係なく、つまり、「は」と「も」の問題に関係なく、この質問には肯定的な答え（「はい」）と否定的な答え（「いいえ」）の両方が成立しうる。

学習の順としては、「はい」の方から進めていきたいが、映像教材としての観点からはここで「いいえ（いえ）」としたのは効果的であった。それは、たばこではないもの、つまりウイスキーであることが映像で示されたからである。したがって、

⑦′ い（い）え、（それは）ウイスキーです。

というもっと簡単な答えも成立するが、ここでは⑦⑧の二文で答えている。

税関吏は紙袋よりウイスキーを取り出し確認する行動をとる。

このⅡ－１、Ⅱ－２を通じて、この税関の場での中心的学習項目が実にきちんと提示されていることに注目したい。（また、この部分はこの映画全体の学習のねらいも浮きぼりにしている。）

Ⅱ－３　時計、おもちゃのかえるを話題にして（⑨から⑲まで）

Ⅱ－１、Ⅱ－２で学習したことの復習確認、展開の形をとっている。

⑨⑩の問い答えは、②③や④⑤のペアと全く同じでありながら、「こ」「そ」

が問い答えで入れ変っている点に注目してほしい。税関吏は、坂本の手元にあるものに（「そ」）対して問い、坂本は自分の手元にあるもの（「こ」）について答えている。

②④これは何ですか。→それは｛③人　形 ⑤たばこ｝です。

⑨　それは何ですか。→⑩これは時計です。

学習者の母語によってこの点についての学習上の難易も異なるであろうが、映像教材を利用して教育を進めていく以上、対話者と事物の位置（どちらの側に属するか）によって決まるこの「こ」と「そ」を基本の形として明示的に理解させておくことは是非必要なことであろう。そして実際の教室内での学習では、同種の場面を設定した徹底的な練習がのぞまれるであろう。

⑫⑬の問い答えは、⑥の問い⑦⑧の答えに対応するものである。「こ」「そ」については、⑨⑩で学習したことをそのまま延長し、⑥の「も」を⑫で繰り返し、⑦⑧で学習した否定的答え方を圧縮した形で⑬を学ぶ。同様の答え方をすれば、

⑦′ いいえ、時計ではありません。

⑧′ これはかえるです。

となるが、この⑬の答え方は、こうした場面では普通ありえない答えをいきなり出して、突飛な刺激による学習効果（劇的とまでは言えないにしても）を高めている、といえるであろう。こうした場面で予想されるもののやりとり、つまり、質問者にほぼ了解できるもの（ここでは旅行者が普通かばんの中につめているもの）を越えて、意表外の答えが返ってくると、⑭のような驚きのきき返し表現が起こる。この「かえる」はもちろん、この場合「おもちゃ」であるから、すぐ続けて⑮の説明になる。

⑮′ これはおもちゃのかえるです。

「かえる」であることはわかっているので、「おもちゃです」とだけ答えている。最初から誤解の余地のない答え方をしようと思えば、

⑬″ いいえ、これはおもちゃのかえるです。

あるいは、

⑬‴ いいえ、これはおもちゃです。

とすればよかった。そう答えていれば、最初の人形のようにその中身を調べられ

ることなく無事パスしていたかもしれない。

「かえる」をめぐっての対話はまだ続く。⑰の「何」はすでに学習した「何」とは、どのようなことをきこうとしているのかという点で異なっている。すでに「おもちゃ」の「かえる」とわかってしまっているものに対し「何ですか」ときいている。この「何」はその事物の材料・材質、つまり何でできているのか、をきいているのである。

したがって、その問いの意味を限定するため「ゴムですか、プラスチックですか」という表現が続く。税関吏は「ゴム」あるいは「プラスチック」でできているものであろう、と推測し、選択的問いを補ったわけである。

ここでは「何」がそのものの実質を問う他に材料・材質をきく場合があること、それから「__ ですか、__ ですか」という選択要求の質問文を文型として学習する必要がある。ここでは両者が組み合わさって一文となっている。

A { ⑰′ これ（この人形）は何ですか。
　　⑱′ それはセルロイドです。

B { ⑰″ これはセルロイドですか、ビニールですか。
　　⑱′ それはセルロイドです。

A+B { ⑰‴ これは何ですか、セルロイドですか、ビニールですか。
　　⑱′ それはセルロイドです。

⑰⑱の質問応答は、意味をもう少し明確にしようとすれば、

⑰⁗ これは何ですか、ゴムのかえるですか、プラスチックのかえるですか。

となる。

この場面で特に注意してほしいのは、最初「かえる」が坂本の手にあり、次に税関吏の手に移ったことである。同じ「かえる」を指しながらも、二人の使用する「こ」「そ」がその前後で逆になっている。税関吏は⑫で「それ」と言い、⑰で「これ」と言っている。坂本は⑮で「これ」と言い、⑱で「それ」と言っている。この点を十分学習させなければならない。

以上、場面Ⅱの1、2、3で幾つかの提示物をめぐりながら、「こ」「そ」の関係の学習を進めてきた。次に問題になるのは当然「あ」である。

Ⅱ－4　荷物を話題にして（⑳から㉑まで）

ここでは視点が大きく変わる。今までは、対話者の共有領域内での事物をめぐっての対話であったため、全て「こ」と「そ」で処理されてきた。二人が対話をする場合、空間的に共有していた場所を離れた事物について問い答えを発する場合、どうなるのか、先に言えば、両者にとって「あ」となるわけだが、両者にとって「あ」であるところが映像的にもう少しきちっと提示できていなかったのは、少し残念である。

ひととおり荷物の調べを終えた後、税関吏の目は職務上、周辺的なところまで届く。今まで調べてきたもの（人形、たばこ、ウイスキー、時計、おもちゃのかえる）は、いわば、ひとまとめにして旅行者・坂本の荷物である。したがって、二人を離れて向こうにあるものは、まず荷物として認識され、「あ」であり、「は」ではなく「も」できかれることになるわけである。ここに⑳の問いが成立し、㉑の答えが成立する。

㉑の否定形による答えは、⑦⑬の文型的復習を兼ねつつ、意味的にも自然な答えであろう。この㉑は、それが誰の荷物であるか、わからなくてもいいし、また、積極的にわかる必要もないことなので、

㉑′いいえ、ちがいます。

とシンプルに答えても一向にかまわないところだろう。

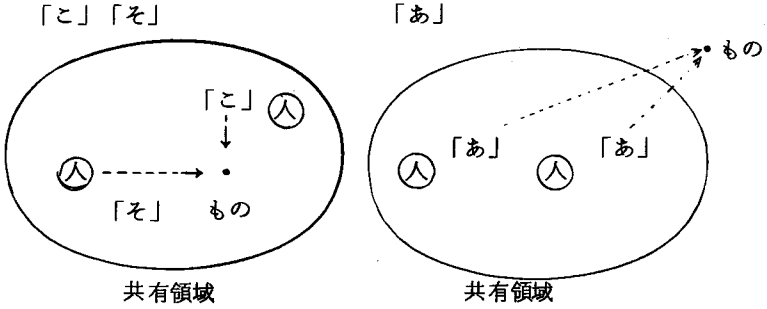
以上、この場面Ⅱでは、1、2、3で「こ」「そ」の基本的理解、4で「あ」の導入がなされた。場面Ⅱを通じて二人の位置関係はカウンターをはさんでついに変わらなかった。この固定化は、「こ」「そ」の理解を確実にするためのものであったが、もし両者が身をのり出してあるひとつのものを同時に手に触れられるような具合に話しをした場合にはどうなるであろうか。また、二人の共有領域を離れて存在する「あ」ほど遠くなく、両者からほぼ等距離にあるようなものについては、どうなるであろうか。

少し進んだ段階での学習では、こうした点の理解も要求されてくるだろう。この場面Ⅱは、そうした発展的学習への契機も含んでいるので、学習者の学習段階にあった活用というものが望まれるであろう。

次に「何」について繰り返すと、「何」は提示されたものの何について問うているのかが大事であった。それは包装された箱であるが、箱の中の人形であった

し、同様に紙袋の中のたばこであり、ウイスキーであり、時計であった。それはかえるであるが、おもちゃであり、ゴムであった。

最後にここでの「こそあ」のポイントを図示してみる。



Ⅲ　タクシーの中で

走るタクシーの中での、坂本と運転手との対話

坂　本「㉒あれは何ですか」

運転手「㉓どれですか。」

坂　本「㉔あの建物です。」

運転手「㉕あれはホテルです。」

坂　本「㉖ああ、そうですか。」

坂　本「㉗あの建物は学校ですか、病院ですか。」

運転手「㉘あれは病院です。」

今、映画的には、税関を通過した坂本がタクシーに乗り、ホテルに向う途中だ、と思われる。坂本と運転手の関係は、まず乗客とタクシーの運転手という関係であり、次に位置的関係は、ほぼ固定的で動くことがない。タクシーは走っているため、運転手が客に背を向けているという他、この場面設定は税関の場と極めて似ている。

ただ言語表現に即して言えば、税関の場では、質問する人、答える人の役割までほぼ固定的であったのに対し、こうした場面では役割分担がそれほど厳しくはなく、もっと流動的である。しかし、この場面では、税関の場では答える人であった坂本を質問する人に役割を固定した。話題となるものが、タクシーの窓から

遠くに見えるものだけに限定しているため、この役割分担はここでは自然であるといえよう。というのも、車外に見えるものは、坂本にとって初めてのもの（あるいは昔と大きく変ってしまったもの）であり、運転手にとっては多分に熟知しているもの、と言えるからである。つまり、坂本の問いに運転手は多くの場合、答えられるだろう、という前提がある。

さて、この場面は、「こそあど」の観点からはⅡ－4で導入された「あ」の用法の補足発展である。話題となるのは「あの」建物で、それはまず「ホテル」であり、次に「病院」である。「あ」の用法は、「あれ」から「あの」へ拡充・発展する。

対話のまとまりから二つの部分に分けて検討を進めていく。

Ⅲ－1　ホテルを話題にして（㉒から㉖まで）

㉒の問いに対する答えは㉕である。すでに文型的に学習した②③、⑨⑩のペアと一緒に並べてみると、

②これは何ですか。→③それは人形です。

⑧それは何ですか。→⑩これは時計です。

㉒あれは何ですか。→㉕あれはホテルです。

という関係がある。これで「こそあ」の用法の基本的な形がそろった。

㉒の問いに対する答えは㉕である、と言ったが、ここではその間に㉓㉔がはさまっている。㉒の問いは車外に見える建物を指していたのだが、きかれた運転手は指示されたものがすぐ認知できず（客の突然の問いということもあって）、㉓の問い返しを起こしている。同種のもの（この場合は建物）が幾つかあって、その中から選択的に一つのもの指定しようとする時、「どれ」を使った質問文が用いられる。このきき返しに対し、明瞭に事物を指示しなおしたのが、㉔である。したがって、㉒の問いは、

㉒′あの建物は何ですか。

という更に具体的な問い方も可能であった。

ともかく、㉕の答えがあって、その答えに対する了承、納得、うなずきがの表現が㉖である。この場合、文末はさげて発音される。文末をあげて発音すると、相手の言ったことを疑問に思う、という意味になる。

㉕あれはホテルです。

㉖′ そうですか。（↘）（うなずき的）

㉖″ そうですか。（↗）（疑問に思う）

ところで、このタクシーの場は映像の面から少しく問題がある。㉔の「あの建物です」と言語表現の方からきちんと指示しなおした時には、指示されたものが映像としてはっきり示されていなくてはならないだろう。ところが画面には建物が二つ見えている。㉓の「どれですか」というききかえしのところで、同種のものが三つ以上並ぶ提示のしかたをするのは「どれ」の意味用法を理解する上で有効であるが、「あの」建物ときちんと指示した時には、画面の中の一点を指していなくてはならないだろう。

Ⅲ－２　病院を話題にして（㉗から㉘まで）

建物をめぐっての対話が続く。㉗の問いは⑰の問いを応用したもので、すっかりまねれば、

㉗′ あれは何ですか、学校ですか、病院ですか。

となる。

すでにやりとりのある建物をめぐっての問いであるから、今度はすぐ運転手の答えがかえってきた。

映像についての注文をまた言うことになるが、ここで提示されたものは、「あの」建物であった。建物には、ホテルがあり、学校があり、病院があるわけだが、最初の建物については、それがホテルであり、二番目の建物については、それが学校ではなく病院である、ということの何らかのしるしが映像的にほしかった。最近の近代建築では、それを外観的に知る、というのは難しいことになるのかもしれないが、映像を通じて「あの」という指定のしかたに工夫ができていないのは残念というほかない。

この場面Ⅲでは、「あ」の用法が補充され、「これ」「それ」「あれ」に加えて、「あの」の用法にまで理解が広がっているので、実際の教室での学習では「この」「その」の用法にまで当然広げていきたい。また「何」に加えて「どれ」が使われているわけだが、ここに「どの」の用法も加えれば、さまざまな言いかえ練習も可能になってくる。例えば、

㉒′ あの建物は何ですか。

㉓′ どの建物ですか。

㉔′ あれです。

㉕′ あのたてものはホテルです。

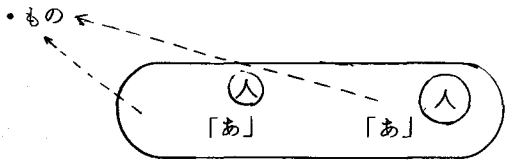
㉖′ ああ、そうですか。

㉗′ あれは何ですか、学校ですか、病院ですか。

㉘′ あの建物は病院です。

なお、このタクシーの場では、「あ」の用法の理解に重点を置いたため、話題となるものを全く二人の共有領域外のものとしてしまったが、例えば、ある明示的な目的地（坂本の行こうとしているホテルとか、目的地とか）を設定すれば、「あ」がやがて「そ」になり、「こ」になる、という「こそあ」の学習も成立しえた。この場合には、「こそあ」のもう一つの系列、「ここ」「そこ」「あそこ」という場所を表わす言い方が導入される必要もあったろう。少し進んだ段階での学習では、この辺のことも考慮に入れる必要があろうが、場所をあらわす言い方は、次の、ホテルのロビーの場で学習される項目として残される。

ここでの「あ」の用法を話者と事物の関係で整理すると次のような図になる。



共有領域の固定したままの動き

Ⅳ ホテルのロビーで

ホテルのロビーでの、ボーイX、Yと坂本による対話

ボーイX「㉙坂本さんのかばんはどれですか。」

ボーイY「㉚坂本さんのかばんはあれです。」

ボーイX（指示されたところまで行き、かばんを取りあげて）「㉛これですか。」

ボーイY「㉜いいえ、ちがいます。

㉝それです。」

ボーイX（別のかばんを取り上げ）「㉞これですね。」

ボーイY「㉟ええ。」

坂　　本「㊱私のかばんはどこですか。」

ボーイY「㊲はい、あそこです。」

坂　　本「㊳あ、そう。」

ボーイX「㊴ここです。」

坂　　本「㊵食堂はどこですか。」

ボーイX「㊶食堂はあそこです。

　　㊷売店はそこです。」

タクシーを降り、ホテルに着いてまもない坂本と、ホテルのボーイX、Yが登場する。しかしながら、三人の関係で、それぞれの共有領域内外のものをめぐって話が展開するという複雑な「こそあ」の用法理解はここでは慎重に避けられている。あくまでも二者による対話を基本にして「こそあ」を処理している。

この場面Ⅳの場面Ⅱ、Ⅲとの大きな違いは、話題となる事物に対して今までは対話者の位置がほぼ固定的であったのに比べ、ここでは人が動き、それにつれて話し手と話題になるものの遠近から「こそあ」の用法に変化が起こることである。それから、身振り・動作（特に手の動き）が「こそあ」の用法に大きな役割を演じていることである。

場面Ⅱ、Ⅲの理解を土台として、ここでは「こそあ」の更に深い理解をめざしているわけだが、基本的理解に徹するため話題となるものを極力簡単なものにしている。

まず、「坂本さんのかばん」が話題となるが、場面としては、ロビーに観光客などのかばん（荷物）がたくさんおかれている。つまりここには同種のものがたくさんあり、「坂本さんのかばん」は、どれ（事物の指示）であり、どこ（場所の指定）にあるか、が問題となる。同種のものがたくさんあるため、ここでは同時に身振り・動作による指示が大切な意味を持ってくることになる。

最後になったが、登場人物の身分関係は、客とホテルのボーイという、今まで通りのわかりやすい社会的関係からはずれていない。

三つの部分に分けて検討を進めていくことにする。

Ⅳ－1「坂本さんのかばん」を話題にして　（㉙から㉟まで）

話者の一人が動くことで「こそあ」の表現に変化の起こることを学習するのが大きなねらいであり、そのため話題となるものを一つに限定している。文法的には「こそあ」が述部に用いられる形を学習することもねらいの中に含まれる。

ボーイXは、Yに近づき、㉙の問いを発した。今、ボーイX、Yは全く同じ場にいるわけである。ボーイXによる㉙の問いは、「どれ」を使っての選択的問いであった。「どこ」を使えば、

㉙′ さかもとさんのかばんはどこですか。

㉚′ さかもとさんのかばんはあそこです。

という場所を中心とした言い方になる。

ともかく、ボーイX、Yの両者にとって「坂本さんのかばん」は共有領域外にあった。ボーイYは手による動作で「あれ」と指示した。ボーイXは、この指示に従って移動し、指示されたものを確認するため「㉛これですか」という問い返しを発している。ボーイXにとっては移動により「あれ」が「これ」となった。ここで、ボーイYは指示しなおすわけだが、「㉝それです」と言っている。ボーイYは、同じ場所を動いていない。同一物を指し示めしながら、先には「あれ（㉚）」と言い、今度は「それ（㉝）」と言っている。指示物は相手の手元近くにあり、「かばん」は相手側に属するので、㉝の「それ」という言い方になっているわけである。ボーイXは「かばん」を確認しなおして、手元にあるものを再び「これ」で表現している。

Ⅳ－2　「私のかばん」を話題にして（㊱から㊴まで）

㊱㊲の問い答えは、すでに説明した㉙′ ㉚′と同様のものである。つまり、「こそあ」系列のうち、ここで場所を示す言い方が導入されたわけである。したがって、次の言い方も成立する。

㊱′ 私のかばんはどれですか。

㊲′ はい、あれです。

ただ、通常自分のかばんは「どれ」であるか、知っているのが常識であるから、その意味で㊱′はおかしな表現になる。

坂本とボーイYにとっては、ここで「かばん」は「あ」であったが、ボーイX

にとっては「こ」である。これが㊴の表現となるが、もともと、坂本、ボーイYによる共有領域がここでボーイXの参加によって拡げられたわけである。三者による共有領域と「こそあ」の表現の形は慎重に避けられてきたが、ここではじめて実験的にとりいれられた。ここでの「あ」と「こ」の表現関係をきちんと把握したい。

㊳「あ、そう」については、㉖「ああ、そうですか」と同じうなずき的表現としてそのまま理解しておく。

Ⅳ－3　食堂、売店を話題にして（㊵から㊷まで）

今、坂本はボーイYからボーイXの方に移動し、ボーイYは会話構成メンバーからはずれた。㊵の坂本のボーイXに対する問い、㊶の答えは、㉙㉚、㊱㊲と同じパターンで、この場面Ⅳのしめくくりの意味をもっている。話題は、このホテルの中の食堂のありかに移った。この時ボーイXは、食堂のありかについて答えたのみならず、続けて㊷で売店のありかについて補足的に説明した。この㊷は、内容的にはホテルに働くボーイとしてのサービス情報として考えてよいだろう。ところで、「こそあ」の観点からはどうか。食堂は「あそこ」、売店は「そこ」と説明された。

まず、「あそこ」「そこ」と手で指し示めせるところに食堂や売店があるのなら、それらしきものを映像として提示する必要があることは、度々指摘した通りである。ことばによる表現だけにしてしまったため、その事物をとらえることができないのみならず、「あそこ」「そこ」の遠近の理解のさまたげにもなってしまった。次に、この「そこ」の「そ」は、ここまで取り扱われてきた「そ」と異なっている。「そ」は対話共有領域内で相手側にあるものと説明してきたが、この「そ」は共有領域外へと向かっている。それを誘導しているのが、ボーイYの手の動きである。あるいは、この瞬間共有領域が拡張され、坂本、ボーイYは一体化して「こ」になり、売店が「そ」として把握された、ともいえよう。

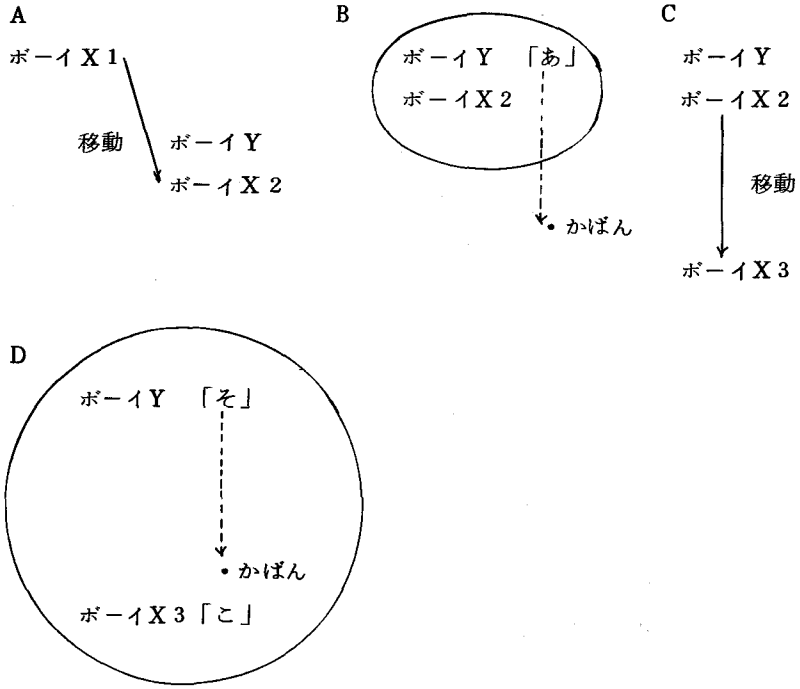
ともかく、ここでの食堂、売店をめぐる「そ」「あ」は、もう少し慎重に処理されるべきであったろう。

以上、ここでは、物事をめぐって話者が動く場合、それから三者による事物指

示の簡単で基礎的な「こそあ」を導入した。こうした人物の動きをとりいれて「こそあ」を描くことができるのは、まさに映像教材であればこそであろう。この「こそあ」学習はここでは導入にとどまるが、今後の発展的学習的学習が望まれるところであろう。

最後にここでの「こそあ」を図示してみると、おおよそ次の通りである。

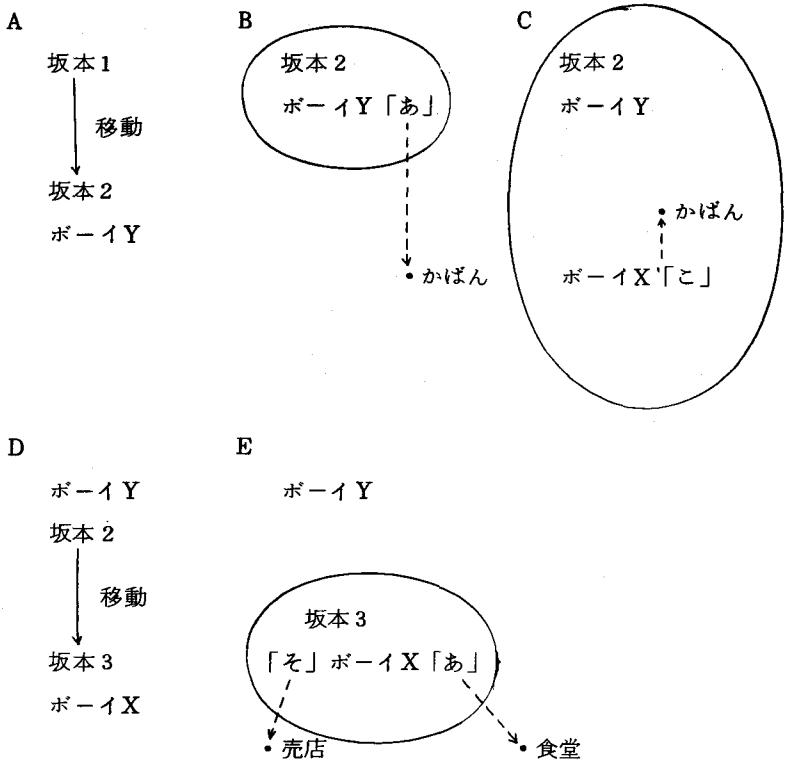
◎ボーイXの移動からみて（A→B→C→Dの順）



ボーイYは位置を変えない。

ボーイXは、X1、X2、X3と移動する。

◎坂本の移動からみて（ A→B→C→D→Eの順 ）



ボーイYは位置を変えない。

坂本は、坂本1、坂本2、坂本3と移動する。

V　ホテルの売店で

ホテルの売店での、坂本と女店員による対話

坂　本「㊸これはいくらですか。」

女店員「㊹それは５０円です。」

坂　本「㊺これも５０円ですか。」

女店員「㊻それは１００円です。」

坂　本「㊼ほう……。

㊽これはどこですか。」

女店員「㊾松島です。」

坂　本「㊿ああ、そうですか。」

51これをください。」

女店員「52ありがとうございす。」

坂　本「53あれは地図ですね。」

女店員「54どれですか。」

坂　本「55あれです。」

女店員「56はい、これは地図です。」

坂　本「57このホテルはどこですか。」

女店員「58ここです。」

坂　本「59大学はどこですか。」

女店員「60ええ……、ここです。」

坂　本「61ここも大学ですか。」

女店員「62いいえ、そこは公園です。」

坂　本「63どうもありがとう。

64この地図もください。」

女店員「65ありがとうございます。」

ボーイに自分の部屋までかばんを運んでもらった坂本は、今度はボーイが教えてくれたホテルの売店で買物をする。登場人物は、坂本と女店員の二人。二人の社会的関係は単純だし、位置的関係も売店のショー・ケースをはさんでほぼ動かない。これは税関の場と全く同じ構成で、この映画での「こそあ」の理解の復習・整理・まとめの役割を果たしている。

話題となるものは、絵葉書と地図。ただし、絵葉書それ自体、地図それ自体に話の中心があるのでなく、絵葉書の値段、絵葉書の絵の場所、また地図内のいろいろな位置が問題となっている。ここでは、話題に従って、前半と後半に分ける。

V－1 絵葉書きを話題にして（㊸から52まで）

すでに見た通り、共有領域内での対話では自分の側にあるものは「こ」、相手側にあるものを「そ」であった。まずその復習をしている。ここでの坂本は自分

の側のものについて問い、女店員は相手の側のものについて答える、というやりとりは、④⑤⑥(⑦)⑧と全く同じ文型である。例示してみよう。

㊸これはいくらですか。	④これは何ですか。
㊹それは５０円です。	⑤それはたばこです。
㊺これも５０円ですか。	⑥これもたばこですか。
㊻それは１００円です。	⑦いえ、たばこではありません。 ⑧それはウイスキーです。

「は」「も」の用法まで含めて全く同じ文型を使用していることがわかる。学習効果を高めるための実に効界的な反復といっていいであろう。しかし、問い方には変化がつけられていて、「何」に代ってここでは「いくら」という語が導入されている。

すでに述べた通り、坂本は売店にいて絵葉書をあれこれ見ているが、絵葉書は坂本、女店員両者にとってそれが何であるか、了解ずみのものであるから、

㊸′ これは何ですか。

㊹′ これは絵葉書です。

という対話はまず成立しにくい。ここは買物の場面であるから値段が問題となり、したがって、「何」に代って「いくら」が用いられることになるわけである。

㊺㊻のやりとりは、⑥⑦、⑫⑬のやりとりなどと同じであるから、「はい」「いいえ」を使っての答えとなるところだが、㊻は実質的な答えだけですましている。もちろん、文頭に「いいえ」を補ってもよい。

つづいて㊽㊾の絵葉書の風景についての問答になる。㊽の「これ」は、絵葉書の風景を指し、㊾の答え「松島」は、日本の東北にある地名を指している。「松島」についての教授者の補足的説明があってもいいところだろう。

㊿の「～を下さい」は、物を買う時の言い方としてそのまま理解しておくことにする。

51′ [これ / それ / あれ] を下さい。

V－2　地図を話題にして(㊸から㊺まで)

「こ」「そ」に「あ」を加えて、「こそあ」の総復習がここでなされる。

話題は絵葉書から地図に移るが、坂本が確認的に地図を指し示す時「あ(㊸)」が使われている。対話の共有領域外にある事物を指す時には「あ」の用いられることについては、すでに触れたことだが、坂本がショー・ケースの向こうにまだ売り物として並べられていない地図らしきものをふと発見して確認的にきいた場面である。

㊸の「ね」は、「か」の客観的問いにくらべると地図であることに対する確信の度合いが強く確認的問いである。

㊸の表現は二人の共有領域外のものを突然指しての問いであるため、「あれ」がどれを指しているのかきかれた方には十分わからず、㊹のききかえし、㊺の指示しなおしへと発展していく。㊻は指示されたものを了解しての答え。ただし、女店員は地図を取り上げた後、二人の共有領域内にもちこんで坂本の前に地図を開きながら、「これは地図です」と答えている。税関の場やタクシー内の場ですでに学習したように坂本に「あ」であれば、女店員にとっても「あ」であるはずだが、共有領域内にもちこまれたため「こ」に変化してしまったわけである。

こうして事物を共有領域内にもちこんで話題を進めていくやりとりがここに導入された。更に注意してほしいことは、この広げられた地図は、坂本、女店員の両方にとって「これ」であり、「この地図」であるということである。事実、坂本は、㊹で「この地図も下さい」と言っている。

話題はここから建物などの位置を地図上に捜すことに移っていく。この場合、坂本、あるいは女店員が地図上に指先で指し示す点はまさしく「こ」そのものである。それを離れて眺める立場にたてば、それは「そ」である。こうして地図上の一点をめぐっても、「こ」「そ」の使いわけがなされる。もちろん、両者が指先で同じ地点を指したり、あるいは片方が指した地点をかがみ込むように見れば、「こ」「そ」の対立は解消して、両者に「こ」になる。

さて、㊼の「このホテル」は、坂本、女店員両者が今いるホテルのことだから、女店員にとっても「このホテル」である。㊽の「ここ」は、地図上の一点を指す。㊽にうなずき的答えをすれば、以下のようになる。

㊼このホテルはどこですか。

㊿′ このホテルはここです。
ああ、そこですか。

なお、㊽と㊼を比べてみると、「こ」の指し示すものとか領域の違いが実に明瞭になるであろう。

㊽′（この絵葉書の）この風景はどこですか。

㊼′（私の今いる）このホテルはどこですか。

㊾から㊷までは、地図上のある一点をめぐっての対話が続いていく。ひき続き、両者の使い分ける「こ」「そ」に注意を向ける必要がある他は、問題はないであろう。ただ、「大学」「公園」という語については、学習者が既習語でない場合には、別に絵カードなどの補助手段で理解させる必要があろう。

㊸は、女店員にいろいろ教えてもらったことに対する客の立場からの御礼のことば。㊺は買物をした客に対することば。前出の㊷も同じ。ていねいさの順は、㊸＜㊷＜㊺となり、㊺が三つの中で一番ていねいである。

㊹は㊶と同じ。ただ、絵葉書をすでに買っているので、「を」ではなく「も」が使われている。

㊹′ この地図 [を/も] 下さい。

以上、この映画を場面を中心として主に「こそあど」の観点からみてきた。煩雑に説明しすぎた個所もあるだろうが、ここで述べたこと全てを学習者に学習させようというわけではなく、この映画を利用するにあたっての教授者のための覚え書き、というつもりである。

ここで十分扱えなかった問題については、次の「語句、語法、文型」のところで論ずるつもりである。

2.3. 語句、語法、文型

2.2.ではこの映画を幾つかの場面に分け、その場面場面に即しながら、主に「こそあど」の問題を映像と結びつけて述べた。ここでは、この映画全体を通しての語（句）、語法、文型の問題を中心にして取り扱ってみたい。

なお、この映画中にあらわれていない文や語句を例示する時、(1)(2)……のようにする。また文や語句の束で例示する時も同じ教え方をする。

2.3.1 個々の事物と名称

この映画で採り上げた事物は大きく二つのグループに分けられる。まず移動可能なもの、つまり場所から切り離し得るもの、それから移動不可能なもの、つまり場所として位置を占めるものである。前者には、人形、時計、かばん、地図、荷物、おもちゃがあり、これに飲みもの、食べもののたばこ、ウイスキーが加わり、更に本来は生き物であるかえるもここに加えておく。これらは、音声表現に即してかなり明瞭に事物を指し示せるものと考えてよい。いくらか違っているのは、おもちゃであって、これはいろいろな種類のおもちゃを提示できる。ここでは生きものであるかえるをおもちゃとし、その材質をゴム（あるいは、プラスチック）と規定した。この用法は必要に応じてその学習範囲を広げることができよう。

上記の事物の中で映像からは理解しにくいものに「かばん」と「荷物」の相違がある。簡単にいえば、「かばん」はものを運ぶための用具そのものであり、「荷物」は「かばん」につめられたもの（用具それ自体も含めて）全部を指している、といえよう。税関の場に即していえば、坂本さんがあけたかばんの中には、たばこやウイスキーやおもちゃのかえるなどがあり、これら全てひっくるめて坂本さんの荷物なのである。

後者（場所として位置を示めるもの、建物、公園など）には、まず、建物としてホテル、学校、病院、大学、食堂、売店がある。これらの建物（あるいはその一部）の他に公園、それから地名の松島がある。後者について注意しなければならないことは、前者ほど明瞭に映像的に全体像を示しにくいことと、それから「場所」として扱う場合と「事物」として扱う場合の二様（この映画では触れていない「方角」を加えれば三様）の態度が成立することである。

2.3.2 人称代名詞

自己紹介、対者紹介、他者紹介としての人称代名詞の用法は、この映画では取り上げられていないが、多くの初級教科書の導入部分と同様に指示代名詞の用法と一括して学習しておくのがよいだろう。

2.3.3 「の」の用法 ── 所有主の規定・属性の規定

格助詞「の」の様々な用法のうち導入としては所有主の規定や属性の規定の用法の簡単な例から学習が始められる、というのが一般的といってよいだろう。

この「の」の用法の学習と前後して「こそあど」のうち、事物指定の「この」「その」「あの」「どの」の用法も学習されることになる。

A．ものの所有主の規定

(1)

私		人形
あなた		たばこ
この人	の	ウィスキー
その人		時計
あの人		地図
＿さん		かばん
		荷物
		おもちゃ
		かえる

B．ものの属性の規定

この映画から発展的に学習できるものとして次の二例をあげておく。まず、材料・材質を規定する言い方。

(2)

ゴム		
プラスチック		
ビニール	の	おもちゃ
紙		
木		
石		
銅		

次に実質内容、あるいは類の規定の言い方。

(3) おもちゃ の

たばこ
ウイスキー
時計
地図
かばん
ホテル
学校
病院

2.3.4. 「こそあど」— 事物の指示

この映画では、「こそあど」の体系の中でどこに理解の重点を置いているのか、をまず明らかにするため、最も一般的な形で一覧表にしてみる。それぞれ、かっこ内の数字がこの映画の中での頻度数である。

	近称(コ系)	中称(ソ系)	遠称(ア系)	不定称(ド系)	品　詞
事物	これ (13)	それ (9)	あれ (8)	どれ (3)	代名詞
場所	ここ (4)	そこ (2)	あそこ(2)	どこ (5)	代名詞
方角	こちら(0)	そちら(0)	あちら(0)	どちら(0)	代名詞
	こっち(0)	そっち(0)	あっち(0)	どっち(0)	代名詞
指定	この (2)	その (0)	あの (2)	どの (0)	連体詞
情態	こんな(0)	そんな(0)	あんな(0)	どんな(0)	形容動詞
	こう (0)	そう (0)	あの (0)	どう (0)	副　詞
				なん (5)	代名詞
				いくら(1)	代名詞

(注：品詞分類は、『基本語用例事典第二版』(文化庁)による。)

この一覧表から明らかな通り、この映画では事物指示、場所指示の言い方を積極的に取りあげ、方角指示の言い方はふれないようにしている。方角指示の言い方は、事物指示、場所指示の言い方をきちんと学習した後での発展的学習として残されているわけである。次に事物指示、場所指示の言い方についで事物を指定する言い方が重要な学習事項となっている。

これだけのことがこの映画で充分学習され、「こそあど」の基本的概念が身につけば、この映画のねらいはほぼ達成された、と言っていいだろう。

なお、「こそあど」については、第二課「さいふはどこにありますか」で更に理解が深められ、第四課「きりんはどこにいますか」でも依然として大事な学習項目のひとつとなっている。「こそあど」理解が日本語学習入門期に通らねばならない大事な門のひとつであるからである。

2.3.5 ＿は＝です

助動詞「です」は、＿の部分で示される事物が＝であることを断定したり、＿の部分で示される事物が＝の部分に示される属性を示すことを断定したり、解説したりするのに用いられる助動詞である。

＿の部分には、まず「こそあ」のうち事物指示、場所指示の言い方のものが入る。

(4)

これ それ あれ	は	人形 時計 たばこ ウイスキー 地図 かばん 荷物 おもちゃ かえる	です。

(5)

ここ そこ あそこ	は	ホテル 学校 病院 売店 食堂 大学 公園 松島	です。

＿の部分に建物、公園など場所的位置を占めるものがくる場合、事物として扱うこともできるので、以下の言い方が可能となる。

(6)

これ ここ	は	ホテル 学校	です。
そこ		病院	
あれ あそこ		売店 食堂 大学 公園 松島	

更に方角指示の言い方に学習を発展させることもできよう。方角指示には二様の言い方が可能であるが、これについては、この基礎篇でも後に扱う予定である。

(7)

こちら そちら あちら	は	ホテル 学校 病院	です。
こっち そっち あっち		食堂 売店 大学 公園 松島	

当然のことながら、質問文に対する答えの場合のように主部（あるいは、主題）が明白な場合には、それが略されることがある。

次に、事物指定の「こそあ」に事物の名称が付いたかたちが＿の部分に入る。

(8)

この その あの	建　物	は	ホテル 学校 病院 食堂 大学	です。

この場合、「この建物」「その建物」「あの建物」は、「これ」「それ」「あれ」と同等になるから、この言い方の言い換え練習をしておくことも必要であろう。

それから、この映画では直接は取り上げなかった人物紹介のための人称代名詞も、＿＿の部分に入る。

(9)

私 あなた この人 その人 あの人	は	坂本（さん） 税関吏 （タクシーの）運転手 （ホテルの）ボーイ （売店の）女店員	です。

今度は、＿＿の部分に「こそあ」が入る場合を考えてみる。まず、事物指示の言い方が＿＿に入る場合。

(10)

人形 時計 たばこ ウイスキー 地図 かばん 荷物 おもちゃ かえる	は	これ それ あれ	です。

これは、主題であるA は主題 の部分に所有者を指定することができる。

(11)

私 あなた この人 その人 あの人 坂本さん	の	人形 時計 （など）	は	これ それ あれ	です。

事物指示、場所指示、両方の「こそあ」が ＿＿ の部分で可能になるのは、の部分に建物などを表わす事物がくる場合である。

(12)

ホテル 学校 病院 食堂 売店 大学 公園 松島	は	これ ここ それ そこ あれ あそこ	です。

なお、＿＿ の部分に場所指示の「こそあ」が入る場合には「です」が「にあります」と言い換え可能となる。

(13)　売店はあそこ　| です。
にあります。 |

この「です」と「にあります」に関連した詳しい説明は、映画解説２「さいふはどこにありますか」に述べられている。

次に事物指定の「こそあ」に事物の名称が付いた言い方が、＿＿ の部分に入る。

(14)

ホテル 学校 病院 食堂 売店 大学	は	この その あの	建物	です。

以上の場合にも、主部（あるいは主題）が明白な時には省略された言い方がよく起こる。

他に、＿＿の部分には主部に提示された事物の材質や値段を規定する語が入る。

(15)

これ この人形		ゴム プラスチック かわ		
それ そのおもちゃ	は	50 100 1,000	えん	です。
あれ あのかばん				

2.3.6. 「は」と「も」

「＿＿は＿＿です」の文型で肯定判断されたものと同一であると肯定判断する場合、ふたつめ以上のものについて、「は」は「も」になり得る。これは否定判断文や質問文の場合も同様である。

(16) これ | は / も | 人形です。

(17) それ | は / も | 時計です。

(18) あれ | は / も | たばこです。

2.3.7. 「です」「ではありません」「ですか」「ですね」

「です」が肯定判断であるのに対し、「ではありません」は否定判断を表わす言い方。「ですか」は、説明要求、あるいは判定要求をする言い方であるのに対し、「ですね」は確認要求的言い方。

(19)　これは人形　| です。
ではありません。
ですか。
ですね。 |

「ですか」を重ねて選択的に問う言い方もある。

(20)　これは　| たばこ
食堂 |　ですか、　| ウイスキー
売店 |　ですか。

2.3.8. 「何」「いくら」「どれ」

「何」は事物の実質や属性を、「いくら」は値段を、「どこ」は場所を、「どれ」は同種のものが三つ以上ある場合、特定のものを選択的にきく場合用いられる。

(21)　これは　| 何
いくら |　ですか。

(22)　坂本さんのかばんは　| どこ
どれ |　ですか。

「何」を使って実質や属性を問いながら、それに続けて「＿ですか、＿ですか」と範囲をせばめて選択的に問う言い方もある。

(23)　これは何ですか、たばこですか、ウイスキーですか。

(24)　これはいくらですか、５０円ですか、１００円ですか。

また、「どれ」については、きき返しの用法がある。3.2.ですでにふれたことであるが、

o 質問

o きき返し

o 指示しなおし

o 応答

の順で進む対話が二度出てくる。ここで復習してみると

（説明要求）㉒あの建物は何ですか。
（きき返し）㉓どれですか。
（指示しなおし）㉔あの建物です。
（応答）㉕あれはホテルです。

（確認要求）㊸あれは地図ですね。
（きき返し）㊹どれですか。
（指示しなおし）㊺あれです。
（応答）㊻（はい、）あれは地図です。

このうち、きき返しと指示しなおしは「＿＿です」（「＿＿は」の部分がない）の文型と言えよう。「＿＿です」の文型は、映画解説２「さいふはどこにありますか」で詳しく解説される。

ともかくも、これはひとかたまりの表現として学習しておくのが便利であろう。事物を様々にとりかえることで、この文型を身につけたい。

2.3.9. 「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」と「そう」

「はい」「ええ」は質問文に対する肯定的応答、「いいえ」「いえ」は否定的応答の場合に用いられるのが普通一般の用法である。それぞれ前者の方がていねいである。（なお、「はい」「ええ」の問題については、解説２に説明がある。）以上のものは、判断要求の質問文に対する応答につくもので、説明要求の質問文、つまり「何」「いくら」「どこ」「どれ」などのある質問文の応答にはつけない、というのが初級教科書一般の原則的な形であるが、実際会話では返事のメルクマールとして、「はい」が付くことがある。

㊱わたしのかばんはどこですか。

㊲はい、あそこです。

「はい」「いいえ」に説明的に言葉を続けず、それだけで言い切ってしまう言い方も場面によっては可能である。また、意味のない合図的な「はい」もある。

⑨それは何ですか。

⑩これは時計です。

⑪はい

「はい」「いいえ」を受けて文を完成する時、「そう」が使われる。

(25)　これはたばこですか。{はい、そうです。
いいえ、そうではありません。

もちろん、他にも応答の方法がある。

(25)′　これはたばこですか。

はい、	そう （それは）たばこ	です
いいえ、	そうではありません。	（それは）ウイスキーです。
	ちがいます。	
	（それは）たばこではありません。	

2.3.1Q　「あ」「ああ」「え」「ええ…」「ほう」

これらは相手の発言を受けて応答する時、応答の冒頭に現われるもので（それだけで言い終ってしまうこともある。）相手発言の受けとめようによって非常にバリエーションがある。（相手なしに事態に向って発する場合もある。）つまり、感情移入の強弱によって様々に変化するのであって、実は非常に学習しにくいものであるが、会話の学習にはどうしても必要なものであろう。

「あ」「ああ」は自己了承的。その場合、あとに「そう」が続くことが多い。

(26)

あ ああ	そう そう……。 そうですか。

「え」は、相手の発言がうまく聞きとれず、聞き返す時や、驚き・疑問などを表わしたりする時のもので「えっ」「ええっ」と同じ。肯定了承の「え」「ええ」と混同しないこと。

{⑬′ これはかえるです。
⑭　え、かえる？

⑬″ これはかえるですか。
⑭′ え、そうです。

「ええ……」は、言うのをためらったり、言いよどんだりする時に現れる。この映画では、地図上の一点を捜し求めながら「ええ……」と言っている。「ほう」は感動したり驚いたりした時に発する言葉である。

以上のものは相手の発言、あるいは、その場の事態に触発されて出てくるもの（「ええ……」は幾らか違うか）だが、これらとは違って対者に語りかけようとする時、つまり自分が対話を始めるにあたって使用されるものがある。「あのう」が一例である。

㊸′ あのう、これはいくらですか。
㊹′ ああ、それは５０円です。

これについては映画解説２を参照されたい。

2.3.11. 「どうぞ」と「どうも」

「どうぞ」は相手にお願いしたり、何かすすめたりする時の言葉。「どうも」はこの映画では「ありがとう」の程度を強める副詞である。圧縮表現で「どうも」とだけ言うこともある。したがってお礼の言い方にしても次のような言い方が可能になる。

㊸′ どうも。
㊸″ ありがとう。
㊸ どうもありがとう。
㊸‴ ありがとうございます。
㊸⁗どうもありがとうございます。

2.3.12. 「下さい」

ものを買う時の表現としてこのまま文型として理解しておく。助詞「を」についての説明及び学習は動詞の導入まで待つことにしておいていい。追加的に言う場合「を」が消え「も」になるのは、「は」の場合と同じ。

(27) { これはたばこです。 / これもたばこです。

(27)′ { これを下さい。 / これも下さい。

2.3.13. 「さん」「円」

「さん」は接尾辞であり、「円」もここでは接尾辞である。

「さん」については、ここでは「坂本さん」のみが現われているが、実際の教室では、クラス・メートや、先生について言う練習ができるであろう。「さん」のみならず、「先生」を学習することも実用的であろう。

「円」については、ここでは「５０円」「１００円」のみであるが、「円」が日本の貨幣単位であることを学習し、また、数え方を学習した後、その結合した形の言い方に進む、という手順が必要であろう。数え方の学習の進度と関係してくるわけである。

「円」については、イチ、ニ、サン……の系列の数え方が用いられるが、「4円」については「よえん」である。「7円」は「ななえん」「しちえん」の両方がある。

他に助数詞の学習がすんでいれば、学習の範囲は大きく広がっていこう。なお、第五課「なにをしましたか」では時刻の言い方を学習し、第七課で助数詞の表現を集中的に学習することになっている。

2.4. 音声表現について

音声表現上の問題といっても、ここでは主に文字表記との関係から簡単に述べる。この映画での音声表現は現行文字表記の基準になるだけ即して文字化した。

㉓は「ど、（ど、）どれですか。」ときこえないこともない。また㉕の文頭がどもって「あ、あれはホテルです。」ときこえないこともない。これは全く無視した。

「あ」「ああ」「え」「ええ……」「ほう」などは文字化のむずかしいものであったが、あまり深くこだわらなかった。

「はい」「いいえ」のバラエティーをとらえることもむずかしいが、それもこの段階ではさきほど重要視しなかった。「いいえ」についていえば、この映画では「いいえ」4例、「いえ」1例となっている。

「何」（「なに」「なん」）については以下の説明を引用しておく。

なん〔何〕「なに」の音便形。　「だ」「で」「と」「の」に続く時、「なん」になる。そのほかに「に」「か」等に続く時、「なん」になることがある。

（西尾実也編「岩波国語辞典・第二版」より）

質問文については「？」の記号を用いていないが、次の場合は例外とした。

o　終助詞「か」のつかない質問文には、「？」を文末につける。

㊼′（地図を見ながら）このホテルはどこです？

o　驚ろきやきき返しの一語文的なものには「？」をつける。

⑭′かえる？

o　不完全文的な質問文には「？」をつける。

㉘　つくえのひきだしのなかは？

この映画では、「？」のつくものは、⑭の「え、かえる？」の一文のみである。

3　この映画の効果的な利用のために

2.ではこの映画の目的や内容や構成を細かく具体的にみてきた。ここではこの教材を実際の教室でいかに効果的に利用するか、という観点から簡単に考えてみたい。

度々述べた通りこの映画は視聴覚補助教材として利用されることを主要目的としている。したがって教授者、学習者の置かれた学習環境の中で主要教材を効果的に補助するものとして使いこなされなければならない。（視聴覚教材を主体とした積極的利用法も考えられるが、今はそれにふれない。）

日本語教育の学習環境 ── 教授者のかかえている様々な条件、学習者の動機、目的、文化的背景など、まだ実際的な教育場での様々な条件や制約 ── は千差万別であるが、学習者の言語能力 ── 語彙力、文法力、文型使用能力、聴取力など ── に応じて効果的に利用していくことが基本である。

映像に関する学習者の興味と関心にしても国内での利用と国外での利用では、そこに大きな違いがあるだろう。単に映画を見せて終り、というふうにしないためにも、この映画から引き出し教えようとしているものを教授者は明白にしておく必要がある。

ここで考えておかなくてはならないことは、視聴覚教材の利点とその限界である。利点の方からいえば、具体的な場での言語表現に伴うあらゆる事柄を極めて現実的に総合的に提示できることである。とかく、音声表現や文型の問題にばかり注意が傾きがちだが、広い視野から言語行動全体をとらえていくことが望ましい。

映画教材の利点としての総合性は、実は同時に短所にもなってしまう。画像のねらいがしっかりしていないと学習者が予想外のことを学習してしまうような結果になる。（何を学習したか事後のチェックも重要である。）更に語法の細かな点については細かく描写できない、という当然のことながらの問題がある。教授者は必要学習事項をきちっと押えておいて、映像を助けとしながら学習を進める必要があろう。

3.1. 具体的利用法

この映画教材は映画（８ミリ、１６ミリ）としての利用のみならずビデオによる利用までが可能になった現在、映像教材として多様な利用法が考えられる。次に幾つかの具体的利用法を考えてみよう。

3.1.1. 映画（８ミリ、１６ミリ）だけを使用する場合

A. 「こそあど」や「＿は＿です」の文型の学習が済んだ後、総まとめとして映画を見せる。その場合、未学習の語彙をあらかじめ学習しておく方法もあるが、映画に即して学習させ、後から復習する方法もある。

B. いきなり映画を見せる。この映画が出発点となって教室での学習が進められる。

C. 学習の中途の段階で映画を見せる。映画による刺激で学習内容に興味をもたせ、学習内容を確実化していく。

3.1.2. 映画と音声テープを併用する場合

映画からサウンドをコピーするのは、比較的簡単にできよう。映画に比べれば音声テープの操作はずっと簡単なので問題点を拾い上げ、説明用に練習用に利用すれば映画での学習内容を更に確実化できよう。

最後に総しあげとしてもう一度映画を見せることも考えられよう。

3.1.3. ビデオの利用も可能な場合

ビデオの利用が可能であれば、この教材を主体とした学習が可能なところまで利用の方法が広がろう。ビデオを見せ、学習者の拾い上げた語彙の理解、徹底、また発音練習を始めとして、質問応答の文型の理解、練習、また対話者と事物との位置関係から「こそあど」の理解、そして更には日本人の言語行動様式（例えば、お礼の言い方）の学習にまで必要に応じた学習ができよう。

何といってもビデオの利点は、場面ごとに区切り、ねらいをしぼり、何度も繰り返し見せることが手軽にでき、学習者に応じた柔軟な対応ができることだろう。

3.1.4. シナリオを利用する場合

この解説書の最後にシナリオ全文の形でひらがな書きにしたせりふが付けてある。コピーをとれば、発音練習のための教材にもまた文字学習のためにも利用できよう。

3.1.5. その他の自主作成教材と併用する場合

映画、ビデオ、音声テープに加えて、スライド、ピクチャー・カードなど手持ちの教材もあわせて利用できるようであれば、更に効果的であろう。それぞれの語についてピクチャー・カードなどで指し示すことで事物と音声表現の結びつきは一層強固なものとなる。実際の教室で利用できるものと積極的に結びつけ、学習を広げていってほしい。

現在、この映画に即してのスライドやピクチャー・カードなどは作成されていないので、手持ちのものを利用するか、自主作成するかしかないのは、残念である。

3.2. 語、語法の理解

この映画で取り扱われた語は、個々の実際の教室での教科書のものとかなりずれがあるであろう。映画の場面構成上、あるいは映像効果を高めるために普通初歩の学習では取り上げない語がここにはある。映像を通じて簡単に理解できるものはいいとしても、どの程度詳しく学習させていくのかは映画を利用する教授者の課題である。映画に即して理解学習させることを考えると同時に主要教材との関連も十分考慮したい。

この映画で扱われた語の問題や映像からは理解しにくい語の問題についてはすでに 2. 3. 1 でふれた。映画化が不十分な語についてはピクチャー・カードなどの利用による徹底した練習がほしいところである。

語彙学習をどこまで広げていくかは別として、語彙の拡張について参考までに一案をあげておく。

A. 「ウイスキー」をもとにして

o（お）酒　o ビール　o ジュース　o（お）茶　o コーヒー

o紅茶　など

B．「かえる」をもとにして

oへび　o犬　oねこ　o馬　o牛　oぶた　o鳥　o動物

o人間　など

C．「建物」をもとにして

oビル（ディング）　o屋根　o壁　o門　o戸（ドア）　o窓

o玄関　o部屋　o和室　o洋間　o応接室　o便所（トイレ）

など

D．「公園」をもとにして

o庭　o遊園地　o校庭　o運動場　o芝生　o道　o大通り

o歩道　o橋　など

E．「ゴム」「プラスチック」をもとにして

oセロファン　oセルロイド　oビニール　oメッキ　oトタン

oブリキ　oガラス　oセメント　o紙　o木　o石　o鉄

o金　o銀　o銅　など

語法については「の」の用法をどこまで広げていくかが大きな問題であろう。

2.3.3.で触れた通りまず、所有主を表わす言い方の「の」の理解学習が基本となり、その後学習範囲をしだいに広げていくことになろう。材質を表わす言い方については上記のE．が利用できる。

3.3 文型練習

ここでの例文は、教材としての活用も考慮してかな（ひらがな、かたかな）書きにする。

まず「＿＿は＿＿です」の文型をきちっと身につけることが基本である。次に質問応答の練習に進む。「＿＿ですか」に対しての「＿＿です」「＿＿ではありません」の肯定、否定の形に進む。

A．順に言いなさい。

	にんぎょう	
	たばこ	
	ウイスキー	
	かえる	
これは	おもちゃ	です。
	にもつ	
	かばん	
	ちず	
	びょういん	
	がっこう	
	ホテル	
	しょくどう	
	ばいてん	
	だいがく	
	こうえん	

B．例にならってa．～l．を言いなさい。

（例）

これ　は　にんぎょう　です。	
それ あれ	も　にんぎょう　です。

a．たばこ　b．ウイスキー　c．かえる　d．おもちゃ
e．びょういん　f．がっこう　g．ホテル　h．しょくどう
i．ばいてん　j．ちず　k．だいがく　l．こうえん

C．例にならってa．～f．を言いなさい。

（例）

ここ　は　びょういん　です。	
そこ あそこ	も　びょういん　です。

a．がっこう　b．ホテル　c．しょくどう　d．ばいてん

e．だいがく　f．こうえん

D．順に言いなさい。

D－1

にんぎょう たばこ ウイスキー かえる おもちゃ にもつ かばん ちず	は	これ それ あれ	です。

D－2

びょういん がっこう ホテル しょくどう ばいてん だいがく こうえん	は	ここ そこ あそこ これ それ あれ	です。

E．順に言いなさい。

E－1

これ それ あれ	は	にんぎょう たばこ ウイスキー かえる おもちゃ	ですか。	はい、そうです。 いいえ、そうではありません。

にもつ
かばん
ちず

E－2

びょういん がっこう ホテル しょくどう ばいてん だいがく こうえん	は	ここ そこ あそこ これ それ あれ	ですね。	はい、そうです。 いいえ、ちがいます。

F．例にならってa．～l．を言いなさい。

（例）これ／それ／あれ は　にんぎょう　ですか。　はい、それ／これ／あれ は　にんぎょう　です。

a．たばこ　b．ウイスキー　c．かえる　d．おもちゃ
e．びょういん　f．がっこう　g．ホテル　h．しょくどう
i．ばいてん　j．ちず　k．だいがく　l．こうえん

G．例にならってa．～f．を言いなさい。

（例）ここ／そこ／あそこ／これ／それ／あれ は　びょういん　ですね。いいえ、ちがいます。

そこ ここ あそこ
それ これ あれ

は　がっこう　です。

a（がっこう／ホテル）　b（ホテル／しょくどう）　c（しょくどう／ばいてん）　d（ばいてん／だいがく）

e（だいがく／こうえん）　f（こうえん／びょういん）

H. 例にならってa.～lを言いなさい。

（例）　これはにんぎょうですか。はい、（それは）にんぎょうです。

それもにんぎょうですか。はい、（それも）にんぎょうです。

a. たばこ　b. ウイスキー　c. かえる　d. おもちゃ

e. びょういん　f. がっこう　g. ホテル　h. しょくどう

i. ばいてん　j. だいがく　k. こうえん　l. ちず

I. 例にならってa.～f.を言いなさい。

（例）　ここはびょういんですか。はい、そうです。

そこもびょういんですか。いいえ、そうではありません。がっこうです。

a. がっこう　b. ホテル　c. しょくどう　d. ばいてん

e. だいがく　f. こうえん

J. 例にならってa.～j.を言いなさい。

（例）　これはゴムですか、プラスチックですか。

a（たばこ／ウイスキー）　b（ウイスキー／おさけ）　c（おちゃ／コーヒー）　d（コーヒー／こうちゃ）

e（ジュース／ビール）　f（き／かみ）　g（ガラス／ビニール）　h（いし／セメント）

i（きん／ぎん）　j（どう／てつ）

K. 例にならってa.～d.を言いなさい。

（例）　そこは　びょういんですか、がっこうですか。

a（がっこう／ホテル）　b（ホテル／だいがく）　c（しょくどう／ばいてん）　d（こうえん／ゆうえんち）

次に「なん」「どこ」「どれ」「いくら」を使った質問応答の練習に進もう。

L. 順に言いなさい。

L－1

これ それ あれ	はなんですか。	それ これ あれ	は	にんぎょう たばこ ウイスキー おもちゃ かばん ちず	です。

L－2

がっこう びょういん ホテル しょくどう ばいてん だいがく こうえん	はどこですか。	ここ そこ あそこ	です。

L－3

さかもとさんのかばんはどれですか。　これ／それ／あれ　です。

L－4

このえはがきはいくらですか。

10	
20	
30	
40	
50	
60	えん
70	
80	
90	
100	
200	

です。

M. 例にならってa.～l.を言いなさい。

（例1.）あれはなんですか。
どれですか。
あれです。
あれはびょういんです。

（例2.）あれはいくらですか。
どれですか。
あれです。
あれは10えんです。

a. ホテル　b. がっこう　c. しょくどう　d. ばいてん
e. こうえん　f. だいがく　g. 50えん　h. 60えん
i. 70えん　j. 80えん　k. 90えん　l. 100えん

N. 例にならってa.～i.を言いなさい。

（例）［これ／ここ］は［なん／どこ／いくら］ですか、［たばこ／びょういん／50えん］ですか、［ウイスキー／ホテル／100えん］ですか

a（にんぎょう／おもちゃ）　b（ちず／ざっし）　c（とけい／たばこ）　d（がっこう／ホテル）

e（しょくどう／ばいてん）　f（まつしま／とうきょう）　g（１０えん／２０えん）　h（７０えん／８０えん）

i（１００えん／２００えん）

O．順に言いなさい。

どれですか、［これ／それ／あれ］ですか、［これ／それ／あれ］ですか。

なお、人物紹介や国籍紹介の言い方も練習しておこう。

P．順に言いなさい。

P－1

［わたし／あなた／このひと／そのひと／あのひと］は（なまえ）です。

P－2

［わたし／あなた／このひと／そのひと／あのひと／＿さん］は［にほん／ちゅうごく／かんこく／フランス／ドイツ／イギリス／アメリカ］じんです。

最後に「の」や「この、その、あの」を用いた言い方の練習を出しておく。

Q．順に言いなさい。

Q－1

これ それ あれ	は	わたし あなた あのひと ＿＿さん	の	にんぎょう たばこ ウイスキー にもつ ちず	です。

Q－2

これ それ あれ	は	ゴム プラスチック ビニール かみ いし き てつ	の	おもちゃです。

Q－3

これ それ あれ	は	おもちゃの	たばこ ウイスキー かばん ちず たてもの	です。

Q－4

この その あの	たてもの	は	びょういん ホテル だいがく しょくどう	です。

3.4. 場面を使っての練習

3. 3.での文型練習は、実際の言語表現が行われる場面を離れての文型修得を目的としたものであった。ここでは、この映画の各場面を利用して実際に演じてみる例をあげてみることにする。

A. 税関の場について

教室内に模擬的税関の場を設定して、まず教授者の方が税関吏の役割を演ずる。旅行者を演ずることになった学習者のかばんの中につめるものは学習者の自由にまかせる。ただし、その全てについて学習者は返答できなければならない。教授者は、かばんの中にあるものを自分の手にもって質問したり、眺めたまま質問したりして、「こ」「そ」の練習をする。

次に、教室内の学習者数にもよるが、教授者の方が旅行者を演じることもできる。

B. タクシー内の場について

たとえば、教室内をタクシーにみたてて、窓の外に見える建物について応答練習することができる。タクシーを一定の空間に限定して教室の壁(あるいは黒板に)に幾つかの建物のピクチャー・カードをはって応答練習することもできよう。

C. ホテルのロビーの場について

同種のものを幾つか並べてそのうちのひとつを選択的に言う練習をする。歩行による移動で「こ」「そ」に変化が起こることをも学習させることができれば、成功といってよいであろう。事物は、何冊かの辞書でもよいであろうし、教科書でもノートでもよい。

D. ホテルの売店の場について

「こ」「そ」「あ」にからませて、物の値段を問い、答える練習をする。事物はなるだけ学習者の親しんでいるものにし、金額の単位は必ずしも「円」である必要はない。

更に場面を使っての様々な練習方法が考えられよう。

3.5. 進んだ段階での利用法

たとえば、次のような利用法が考えられる。

A. 登場人物になったつもりで会話をしてみよう。(そっくりそのまま学習者が

役割を分担すれば、初級段階でもできよう。）

B．この主人公の行動に即してできる限り全ての行動を言ってみよう。

C．この話をナレートしてみよう。

D．この話を作文に書いてみよう。

このうち、B．についての例をあげてみる。

（動詞の基本形だけ言う方法もあるし、「ます体」の文で言う方法もある。）

o 着く — 飛行機が（羽田に）着きます。

o あける — かばんをあけます。

o 話す — 税関吏と話します。

o 答える — 税関吏の質問に答えます。

o いる — タクシーの中にいます。

o 見る — 窓の外を見ます。

o 見える — 建物が見えます。

o 話す — 運転手と話します。

o きく — ボーイにききます。

o ある — かばんはあそこにあります。

o 行く — エレベーターの前に行きます。

o 乗る — エレベーターに乗ります。

o 話す — 女店員と話します。

o 買う — 絵葉書を買います。

o 買う — 地図も買います。

以上は、質問応答の形にして学習者に答えさせるやり方も考えられる。

映画を二度見る場合、二度めには音声を消してみせる方法がある。これがビデオになると、全く別の音声表現と組み合わせてしまうことも可能になる。会話とナレーションの組み合わせで内容を自由に操作できるわけだ。

4. おもな参考文献

Ⅰ. 映像教材関係のもの

有光成徳、他編　1974『実践教育機器用語辞典』　第一法規

主原正夫・高萩竜太郎編　1975『視聴覚機材・教材の扱い方　初級編』　明治図書

西本三十二・波多野完治編　1975『視聴覚教育事典　新版』　明治図書

西本洋一・篠田　功　1975『教育工学用語辞典』(実技講座　教育工学の実践　6)　学習研究社

波多野完治・岸本唯博編　1977『視聴覚研修ハンドブック』　第一法規

町田隆哉　1972「映像教材(2)」『教授とメディアと授業』(講座・英語教育工学第三巻)　研究社

Ⅱ. 「こそあど」及び代名詞関係のもの

岡村和江　1972「代名詞とは何か」『名詞・代名詞』(品詞別　日本文法講座　2)

佐久間　鼎　1963『現代日本語の表現と語法≪増補版≫』　厚生閣版

柴田　武　1957「格・人称」『日本文法講座1・総論』　明治書院

鈴木　忍　1971「コソアドについて」『外国人のための基本語用例辞典・付録』　文化庁

時枝誠記　1950『日本文法講座　口語篇』　岩波書店

三上　章　1972『現代語法新説』(復刊)　くろしお出版

宮地敦子　1964「代名詞」『国語文法の問題点』(講座　現代語　第6巻)　明治書院

資料1　使用語彙一覧

これは映画中に使用された全ての語と使用文例を一覧表にしたものである。資料2.のシナリオ全文のせりふ同様、教材として活用できることも考慮してかな（ひらがな、かたかな）書きにしてある。

1. 見出し語はアイウエオ順に配列し、そこにその使用文例を全て書き出した。
2. 見出し語の認定については、初級日本語教育の立場に立っている。
   2.－1. 「です」に対する「ではありません」をここでは見出し語にしている。
   2.－2. 「ちがいます」「ございます」を見出し語にして「ます」はここでは取り上げていない。
3. 見出し語の語義、活用変化、他の語との結びつきなどに基づいて下位分類する場合には、(1)(2)……のようにした。
   3.－1. 「です」は、「です」「ですか」「ですね」により下位分類してある。
   3.－2. 「か」は疑問の「か」とうなずき、承了的意味合いの強い「か」の違いにより下位分類してある。
4. 使用文例の文頭には、①②……の数字がつけてある。これはシナリオに現われた文の通し番号で、この解説書全体に共通のものである。同一見出し語内ではこの順に文例を提出した。(1)(2)……と下位分類した場合も、その分類内で同一の提出順をとっている。全くの同一文の場合には、㉖㊿のように数字を横に並べ、引用を一回ですました。ただし、同一文でも文中において語の用いられる位置が異なれば引用を繰返した。
5. 見出し語の横には〔　〕で当用漢字の範囲内で漢字を示し、また、その横には（　）で語の使用回数を示した。
6. 文例の使用環境を知りたい場合には資料2.のシナリオ全文を参照のこと。

あ（１）

㊳　**あ**、そう。

ああ（２）

㉖㊿　**ああ**、そうですか。

あそこ（２）

㊲　はい、**あそこ**です。

㊶　しょくどうは**あそこ**です。

あなた（１）

⑳　あれも**あなた**のにもつですか。

あの（２）

㉔　**あの**たてものです。

㉗　**あの**たてものはがっこうですか、びょういんですか。

ありがとう（３）

㊷　**ありがとう**ございます。

㊸　どうも**ありがとう**。

㊺　どうも**ありがとう**ございます。

あれ（８）

⑳　**あれ**もあなたのにもつですか。

㉑　いいえ、**あれ**はわたしのにもつではありません。

㉒　**あれ**はなんですか。

㉕　**あれ**はホテルです。

㉘　**あれ**はびょういんです。

㉚　さかもとさんのかばんは**あれ**です。

㊸　**あれ**はちずですね。

㊺　**あれ**です。

いいえ（４）

⑬　**いいえ**、かえるです。

㉑　**いいえ**、あれはわたしのにもつではありません。

㉜　**いいえ**、ちがいます。

㊷　**いいえ**、そこはこうえんです。

いえ（１）

⑦　いえ、たばこではありません。

いくら（１）

㊹　これはいくらですか。

ウイスキー（１）

⑧　それはウイスキーです。

え（１）

⑭　え、かえる？

ええ（１）

㉟　ええ。

ええ……（１）

⑥⓪　ええ……、ここです。

えん〔円〕（３）

㊹　それはごじゅうえんです。

㊺　これもごじゅうえんですか。

㊻　それはひゃくえんです。

おもちゃ（１）

⑮　はい、これはおもちゃです。

か（26）

(1)②④　これはなんですか。

⑥　これもたばこですか。

⑨　それはなんですか。

⑫　それもとけいですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑳　あれもあなたのにもつですか。

㉒　あれはなんですか。

㉓　どれですか。

㉗　あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

㉗ あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

㉙ さかもとさんのかばんはどれですか。

㉛ これですか。

㊱ わたしのかばんはどこですか。

㊵ しょくどうはどこですか。

㊸ これはいくらですか。

㊺ これも５０えんですか。

㊽ これはどこですか。

㊿ どれですか。

(57) このホテルはどこですか。

(59) だいがくはどこですか。

(61) ここもだいがくですか。

(2)㉖(50) ああ、そうですか。

かえる（２）

⑬ いいえ、かえるです。

⑭ え、かえる？

がつこう〔学校〕（１）

㉗ あのたてものはがつこうですか、びょういんですか。

かばん（３）

㉙ さかもとさんのかばんはどれですか。

㉚ さかもとさんのかばんはあれです。

㊱ わたしのかばんはどこですか。

ください〔下さい〕（２）

(51) これをください。

(54) このちずもください。

こうえん〔公園〕（１）

(62) いいえ、そこはこうえんです。

ここ（４）

㊴(58) ここです。

(60) ええ……、ここです。

㊶　ここもだいがくですか。

ございます（２）

㊷　ありがとうございます。

㊺　どうもありがとうございます。

ごじゅう〔５０〕（２）

㊹　それはごじゅうえんです。

㊺　これもごじゅうえんですか。

この（２）

㊼　このホテルはどこですか。

㊹　このちずもください。

ゴム（２）

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑱　それはゴムです。

これ（１３）

②④　これはなんですか。

⑥　これもたばこですか。

⑩　これはとけいです。

⑮　はい、これはおもちゃです。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

㉛　これですか。

㉞　これですね。

㊸　これはいくらですか。

㊺　これもごじゅうえんですか。

㊽　これはどこですか。

㊶　これをください。

㊻　はい、これはちずです。

さかもと〔坂本〕（２）

㉙　さかもとさんのかばんはどれですか。

㉚　さかもとさんのかばんはあれです。

さん（２）

㉙　さかもとさんのかばんはどれですか。

㉚　さかもとさんのかばんはあれです。

しょくどう〔食堂〕（２）

㊵　しょくどうはどこですか。

㊶　しょくどうはあそこです。

そう（３）

㉖㊿　ああ、そうですか。

㊳　あ、そう。

そこ（２）

㊷　ばいてんはそこです。

㊷　いいえ、そこはこうえんです。

それ（９）

③　それはにんぎょうです。

⑤　それはたばこです。

⑧　それはウイスキーです。

⑨　それはなんですか。

⑫　それもとけいですか。

⑱　それはゴムです。

㉝　それです。

㊹　それはごじゅうえんです。

㊻　それはひゃくえんです。

だいがく〔大学〕（２）

㊾　だいがくはどこですか。

㊶　ここもだいがくですか。

たてもの〔建物〕（２）

㉔　あのたてものです。

㉗　あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

たばこ（３）

⑤　それはたばこです。

⑥　これもたばこですか。

⑦ いえ、たばこではありません。

ちがいます（ 1 ）

㉜ いいえ、ちがいます。

ちず〔地図〕（ 3 ）

㊸ あれはちずですね。

㊻ はい、これはちずです。

㊹ このちずもください。

です（ 52 ）

(1) ③ それはにんぎょうです。

⑤ それはたばこです。

⑧ それはウィスキーです。

⑩ これはとけいです。

⑬ いいえ、かえるです。

⑮ はい、これはおもちゃです。

⑱ それはゴムです。

㉔ あのたてものです。

㉕ あれはホテルです。

㉘ あれはびょういんです。

㉚ さかもとさんのかばんはあれです。

㉝ それです。

㊲ はい、あそこです。

㊴ ここです。

㊶ しょくどうはあそこです。

㊷ ばいてんはそこです。

㊹ それはごじゅうえんです。

㊻ それはひゃくえんです。

㊾ まつしまです。

㊺ あれです。

㊻ はい、これはちずです。

㊽ ここです。

⑥⓪　ええ……、ここです。

⑥②　いいえ、そこはこうえんです。

(2)②④　これはなんですか。

⑥　これもたばこですか。

⑨　それはなんですか。

⑫　それもとけいですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑳　あれもあなたのにもつですか。

㉒　あれはなんですか。

㉓　どれですか。

㉗　あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

㉗　あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

㉙　さかもとさんのかばんはどれですか。

㉛　これですか。

㊱　わたしのかばんはどこですか。

㊵　しょくどうはどこですか。

㊸　これはいくらですか。

㊺　これもごじゅうえんですか。

㊽　これはどこですか。

㊹　どれですか。

㊼　このホテルはどこですか。

㊾　だいがくはどこですか。

㊶　ここもだいがくですか。

(3)㉖㊿　ああ、そうですか。

(4)㉞　これですね。

㊸　あれはちずですね。

ではありません（２）

⑦　いえ、たばこではありません。

㉑ いいえ、あれはわたしのにもつではありません。

どうぞ（１）

① どうぞ。

どうも（２）

㊸ どうもありがとう。

㊺ どうもありがとうございます。

とけい〔時計〕（２）

⑩ これはとけいです。

⑫ それもとけいですか。

どこ（５）

㊱ わたしのかばんはどこですか。

㊵ しょくどうはどこですか。

㊽ これはどこですか。

㊼ このホテルはどこですか。

㊾ だいがくはどこですか。

どれ（３）

㉓㊹ どれですか。

㉙ さかもとさんのかばんはどれですか。

なん〔何〕（５）

②④ これはなんですか。

⑨ それはなんですか。

⑰ これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

㉒ あれはなんですか。

にもつ〔荷物〕（２）

⑳ あれもあなたのにもつですか。

㉑ いいえ、あれはわたしのにもつではありません。

にんぎょう〔人形〕（１）

③ それはにんぎょうです。

ね（２）

㉞ これですね。

㊸ あれはちずですね。

の（５）

⑳ あれもあなたのにもつですか。

㉑ いいえ、あれはわたしのにもつではありません。

㉙ さかもとさんのかばんはどれですか。

㉚ さかもとさんのかばんはあれです。

㊱　わたしのかばんはどこですか。

は（ 30 ）

②④　これはなんですか。

③　それはにんぎょうです。

⑤　それはたばこです。

⑧　それはウイスキーです。

⑨　それはなんですか。

⑩　これはとけいです。

⑮　はい、これはおもちゃです。

⑰　これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

⑱　それはゴムですか。

㉑　いいえ、あれはわたしのにもつではありません。

㉒　あれはなんですか。

㉕　あれはホテルです。

㉗　あのたてものはがっこうですか、びよういんですか。

㉘　あれはびょういんです。

㉙　さかもとさんのかばんはどれですか。

㉚　さかもとさんのかばんはあれです。

㊱　わたしのかばんはどこですか。

㊵　しょくどうはどこですか。

㊶　しょくどうはあそこです。

㊷　ばいてんはそこです。

㊸　これはいくらですか。

㊹　それはごじゅうえんです。

㊻　それはひゃくえんです。

㊽　これはどこですか。

㊸　あれはちずですね。

㊻　はい、これはちずです。

㊼　このホテルはどこですか。

㊾　だいがくはどこですか。

㊷ いいえ、そこはこうえんです。

はい（４）

⑪ はい。

⑮ はい、これはおもちゃです。

㊲ はい、あそこです。

㊻ はい、これはちずです。

ばいてん〔売店〕（１）

㊷ ばいてんはそこです。

ひゃく〔１００〕（１）

㊻ それはひゃくえんです。

びょういん〔病院〕（２）

㉗ あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。

㉘ あれはびょういんです。

プラスチック（１）

⑰ これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。

ほう（２）

⑯⑲ ほう。

ほう……（１）

㊼ ほう……。

ホテル（２）

㉕ あれはホテルです。

㊼ このホテルはどこですか。

まつしま〔松島〕（１）

㊾ まつしまです。

も（６）

⑥ これもたばこですか。

⑫ それもとけいですか。

⑳ あれもあなたのにもつですか。

㊺ これもごじゅうえんですか。

㊶ ここもだいがくですか。

㊹ このちずもください。

わたし〔私〕（２）

㉑ いいえ、あれはわたしのにもつではありません。

㊱ わたしのかばんはどこですか。

を（１）

㊶ これをください。

資料2.　シナリオ全文

題　　名　日本語教育映画
「これはかえるです」
―「こそあど」+「は―です」
企　　画　文化庁　国立国語研究所
制　　作　日本シネセル株式会社
フィルム　16㎜EKカラー
巻　　数　全1巻
上映時間　5分
録　　音　小林　賢
現 像 所　東洋現像所
制作スタッフ
制　　作　静永純一
担　　当　神崎晴之
脚　　本　道林一郎
演　　出　道林一郎・前田直明
撮　　影　伊藤三千雄・河村圭司
照　　明　水村富雄・小宮山達夫・中山敬一
車　　両　小室博信
編　　集　道林一郎・前田直明
ネガ編集　亀井　正
録　　音　小林
タイトル動画　アートフィルム
出　　演　東京放送劇団
劇団阿香車
登場人物　坂本（旅行者）
税関吏
運転手
ボーイX、Y
女店員

カット	画　　面	セ　リ　フ
1	タイトル 日本語教育映画	
2	ジャンボジェット着陸	
3	タイトル これはかえるです	
4	税関標示板	
5	包を取る税関吏	税関吏「①どうぞ。 ②これはなんですか。」 坂　本「③それはにんぎょうです。」
6	税関吏、トランクから紙袋を取り出す	税関吏「④これはなんですか。」
7	坂　本	坂　本「⑤それはたばこです。」
8	たばこの袋をひらく税関吏	
9	袋から酒を取り出しながら、税関吏確認して	税関吏「⑥これもたばこですか。」 坂　本「⑦いえ、たばこではありません。」 ⑧それはウイスキーです。」 税関吏「⑨それはなんですか。」
10	時計を取り上げみせる坂本	坂　本「⑩これはとけいです。」 税関吏「⑪はい。」
11	質問する税関吏	税関吏「⑫それもとけいですか。」
12	答える坂本	坂　本「⑬いいえ、かえるです。」
13	驚く税関吏	税関吏「⑭え、かえる？」
14	包をひらく坂本	坂　本「⑮はい、これはおもちゃです。」
15	かえる	
16	かえるを渡す坂本、それをながめる税関吏、それを返して	税関吏「⑯ほう。 ⑰これはなんですか、ゴムですか、プラスチックですか。」

		坂　本「⑱それはゴムです。」
17	かばん	税関吏「⑲ほう。 ⑳あれもあなたのにもつですか。」 坂　本「㉑いいえ、あれはわたしのにもつではありません。」
18	走る自動車内 たばこを吸う坂本	坂　本「㉒あれはなんですか。」
19	運転手	運転手「㉓どれですか。」
20	指さす坂本	坂　本「㉔あのたてものです。」
21	ホテル外景、車移動	運転手「㉕あれはホテルです。」 坂　本「㉖ああ、そうですか。」
22	病院外景、車移動	坂　本「㉗あのたてものはがっこうですか、びょういんですか。」 運転手「㉘あれはびょういんです。」
23	ホテルロビー遠景 ボーイYがかばんの整理をしている そこへボーイX現れる	ボーイX「㉙さかもとさんのかばんはどれですか。」 ボーイY「㉚さかもとさんのかばんはあれですか。」
24	かばんの所へ行くボーイX	ボーイX「㉛これですか。」
25	指さすボーイY	ボーイY「㉜いいえ、ちがいます。 ㉝それです。」
26	かばんを持ち上げるボーイX	ボーイX「㉞これですね。」
27	うなずくボーイY	ボーイY「㉟ええ。」
28	かばんを持ってボーイYエレベーターの前へ	
29	坂本、ボーイYの所へ来る	坂　本「㊱わたしのかばんはどこですか。」 ボーイY「㊲はい、あそこです。」 坂　本「㊳あ、そう。」
30	エレベーターの前へ行く坂本	ボーイX「㊴ここです。」

31	エレベーターを待つ坂本とボーイX	坂　本「㊵しょくどうはどこですか。」 ボーイX「㊶しょくどうはあそこです。 ㊷ばいてんはそこです。」
32	エレベーターに乗る2人	
33	売店の前にいる坂本と女店員	
34	坂本、絵はがきを取る	坂　本「㊸これはいくらですか。」 女店員「㊹それはごじゅうえんです。」 坂　本「㊺これもごじゅうえんですか。」 女店員「㊻それはひゃくえんです。」 坂　本「㊼ほう……。 ㊽これはどこですか。」
35	絵はがき	女店員「㊾まつしまです。」
36	絵はがきを買う坂本	坂　本「㊿ああ、そうですか。 51これをください。」 女店員「52ありがとうございます。」 坂　本「53あれはちずですね。」 女店員「54どれですか。」
37	指さす坂本	坂　本「55あれです。」
38	女店員地図を取り上げひらきながら	女店員「56はい、これはちずです。」 坂　本「57このホテルはどこですか。」
39	地図上で指さす	女店員「58ここです。」 坂　本「59だいがくはどこですか。」 女店員「60ええ…、ここです。」
40	地図をたたむ	坂　本「61ここもだいがくですか。」 女店員「62いいえ、そこはこうえんです。」 坂　本「63どうもありがとう。 64このちずもください。」 女店員「65どうもありがとうございます。」

41	出演タイトル 東京放送劇団 劇団阿香車	
42	企画・制作タイトル 企画　文化庁 国立国語研究所 制作　日本シネセル株式会社	

昭和53年 3 月

国 立 国 語 研 究 所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号